

男女共同参画講演会 新聞掲載記事

(1月31日(日) 中日新聞なごや東版)

「ありのまま」受け入れて

長久手 LGBT考える講座

同性愛者や性同一性障害者などLGBT(性的少数者)について考える講座「男・女『らしく』でなく『らしく(楽)』に生きる」多様な性のあり方から考える」が二十日、長久手市役所で開かれた。LGBT支援をしているNPO法人「PROUD LIFE」副代表で、同性愛者である

同性愛者や性同一性と公表している中京大の風間孝教授と、女性の体で生まれたが男性として生活する大学生恒川裕紀さんが講演。市民ら二十三人が参加した。

風間さんは、同性を恋愛対象とする人が国内で約5%いることを示すデータ、LGBTがいじめや暴力を受けて異性愛者よりも自殺するリスクが高い事実を紹介。「LGBTがいることを前提にした言動を周囲がすること、当事者がカミングアウトや相談をしやすくなること呼び掛けた。

恒川さんは、高校で男子用制服のズボンが着られるよう学校側に訴えたことなど、自身が直面した問題と対応を説明した。「カミングアウトしても、それまでの自分であることに変わりはない。もしカミングアウトされたら、相手のありのままを受け入れてほしい」と訴えた。

最後は参加者でグループをつくり、学校や職場でLGBTの人たちが直面する問題や対応策を話し合った。

(堀井聡子)

参加者たちと一緒に職場でのLGBTへの対応について考える(右から)恒川さんと風間教授。長久手市役所で

